

財団法人8020推進財団
平成18年度 歯科保健活動事業報告書

1. 事業名 「佐賀県全小学校の経年的口腔健康度調査と支援」
 — フッ素洗口モデル地区での基礎的データの構築と
 コンピューター分析ソフトの作成—
2. 申請者名 社団法人 佐賀県歯科医師会 会長 寺 尾 隆 治
3. 実施組織 社団法人 佐賀県歯科医師会
4. 研究者名 佐賀県武雄杵島地区歯科医師会 地域保健委員会

5. 事業概要

佐賀県内のフッ素洗口モデル地区（武雄、杵島地区）におけるDMFT指数を経年的に構築し、学校歯科保健の目標、対策に関する基本資料とする。

フッ素洗口モデル地区で実践することにより確実な手法を確立し、第2段階として佐賀県下全小学校の6年生のDMFT指数を平成22年度までに1.6本以下にするという佐賀県歯科保健計画「ヘルシースマイル佐賀21」における数値目標の達成。

6. 事業内容

武雄、杵島地区内小学校全学年の平成12年～22年までのDMFT指数の把握。
 全小学校のDMFT指数のグラフ化と分析。
 分析資料を各小学校へ配布および関係機関へ配布。
 各小学校と学校歯科医へ分析結果とアドバイスの通知。
 行政や教育委員会、学校保健現場等の関係者に対する講和活動。
 総合的事業内容の分析により、他地区への応用を図る。

7. 実施後の評価

6年生時のDMFT指数をモデル地区では1.23本以下に達成するため、セーフティーラインを設定し、このことを福岡歯科大学口腔保健学講座に相談したところ、う蝕の予測に対して優れていると評価を得た。

モデル地区行政ならびに各学校関係者より高い評価を得た。
 フッ素洗口をおこなっている各学校を比較するとDMFT指数に差が見られた。
 データ収集と分析によりモデル地区会員同士の共通の認識を持つことができた。
 過去のデータ収集に時間がかかり、また学校の規模により回収にも時間がかかった。
 学校間の情報保護のため配布先の部数がまちまちとなり振分にかかりの時間を要した。

8. 今後の課題

全小学校が目標数値を達成するために行政、学校関係者、地域、歯科医師会が共通の認識を持ち協力する必要がある。またDMFT指数の数値の高い小学校への就学前からの啓蒙活動の必要性を感じた。
 次年度より関係機関と各小学校への資料配布は電子メールでおこない、必要な連絡も電子メールで行う。
 情報の管理をしっかりとこない、学校名を公表しないようにする。
 佐賀県において統一した資料を得るためにこの事業を広げていく方法を考える。

武雄杵島地区各小学校・年度別入学者6年間の変化(DMF指数)



全小学校のグラフです。
比較検討してみてください。

DページのP小学校、Q小学校、R小学校あたりが理想的です。



